

謹賀新年

平成二十九年丁酉



轉法輪

とちりちん
桃李珍なりと雖も
寒に耐えず
豈に相橘の霜に遇て
美なるに如んや
弘法大師

平成二十九年元旦発行
発行所 犬飼山轉法輪寺
〒六三七一〇〇七一
奈良県五條市犬飼町一二四
電話〇七四七二二一四四〇三
FAX〇七四七一五一四七二七
編集発行人 桑山聖淳
印刷所 森本印刷工業所
和・伊都郡かつらぎ町妙寺

謹んで新年の

お祝いを申し上げます

皆さまお健やかに新春をお迎えのことと存じます。

「二年の計は元旦にあり」と言われるように、心新たに毎日を大切に過ごし、良き一年となりますようお祈り申し上げます。

初詣にお参り下さい

十二月三十一日(土)

除夜の鐘

年越し護摩供

一月一日(日)・二日(月)

甘酒接待

破魔矢授与・今年の一字

一月三日(火)九時半より

新春護摩法会

御鏡開き・ぜんざい接待

AJIGUL新春コンサート

犬飼山轉法輪寺

住職 桑山慈紹

お大師さまのお言葉

桃は珍しいものであるが、寒い季節までは持たない。ミカンには冬に一層甘さを増して色鮮やかだ。この世には沢山のものがあるが、それらに優劣をつけることに意味はない。みな同様に価値があると説かれました。

死ねない命

住職 桑山慈紹



新年あけましておめでとうござい
ます。本年も宜しくお願い申しあげま
す。さて、いま日本人の平均寿命は男女
ともに八十歳を超え、世界でも長寿国
として知られています。しかしながら
やがて動かぬ人となるのは避けられな
いことで、いずれ死を迎えます。では
その命、魂はどうなるのでしょうか。
もう数年も前のことです。人もうら
やむオシドリ夫婦がいました。しかし、

最愛の奥様が病に倒れ、懸命の看護の
甲斐もなく他界されました。枕経の依
頼を受けた私は、一心に読経して寺に
戻りました。翌朝、不動尊護摩供を奉
修し、新仏の成仏を祈念しております
と：「俺のことを忘れたか、なあお
前！」と迫る男の影が現れました。そ
れを必死に拒む女の声。それでも男は
執拗に女に迫ります。しばらくして、
「もうお前はかつてのお前ではない」
と言ひ残し、男は淋しく立ち去るの
でした。四十年以上前のことが、死後の
世界で念となつて生きていたのです。
大師は秘密曼荼羅十住心論第一に
「邪淫の罪は、生けるものを地獄餓鬼
畜生の世界に落とす」と述べておられ
ます。また「真言は不思議なり。観誦
すれば無明を除く。一字に千里を含み、
即身に法如を証す」と仰られました。
御真言の不思議な力を疑うことなくた
だ一心に唱えれば、あらゆる迷いも消
えて真の自分に目覚めることが出来る
と仰られています。

私たちは死ねない命を持つて生きて
いるのです。ですから、三帰三竟十善
戒を守り、悟りを求める菩提心を発し、
たとえ少しでも世のため人のために尽
くせる自分でありたいと努力しようと
はありませんか。

ご報告と御礼

昨年度に手掛けておりました、護摩堂
の屋根の葺き替え、そして庫裏客殿の御
手洗のリフォームが終了致しました。参
拝の皆様には不便をお掛けいたしまし
た。また工事に当たりご喜捨いただいた
お方様に深く御礼申し上げます。



輪 法 轉 (3)

平成二十九年 丁酉年 ひのとり

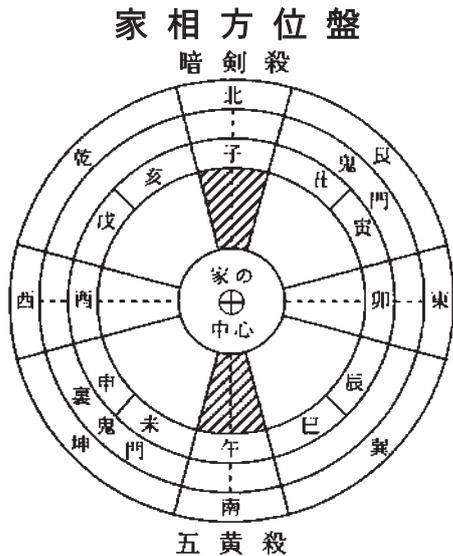
方位の吉凶

住職 桑山慈紹

新年あけまして

おめでとうございます。

平成二十九年度は丁酉(ひのと)とり、
 一白水星の年となっております。よって
 北(子・三十度)に暗剣殺、南(午・三
 十度)に五黄殺、さらに卯(東)に歳破
 神が巡っており、この三方はどなたさ
 まも大凶となります。



今年はこちらの方位に、新築・増改築・土木工事・開店・結婚・出産・長期旅行・就職・進学・転宅・契約などをされる場合は凶作用を受けやすくなりますのでご注意ください。殊に一白水星・六白金星・七赤金星の方は気を付けて下さい。

暗剣殺とは何か?

暗剣殺は、暗闇から剣が飛び出してきて傷つけられるというような、思いもよらぬ災難が外から急に降りかかってくる方崇りのことを言います。よって非常に避けにくいものでもありません。下の病氣・冷え性・盗難・詐欺・色情のもつれ等が暗示されます。

五黄殺とは何か?

五黄殺は、強烈な土に戻す作用をもつ方崇りです。土に戻すのですから、あらゆるものが腐る、崩れるという動きで、五黄殺の崇りで命や財産を失うこともあります。暗剣殺とは対照的に、ジリジリと影響を及ぼすのが特徴で、三年ごとに働き向こう五十年間崇ると

恐れられます。火災・争い・離別・心臓病・眼病・脳病等が暗示されます。

本年の恵方(あきの方位)

本年の歳徳神は壬(みずのえ)亥と子の間(北北西)で、恵方(よい方位)です。新年を恵方位の神仏に祈るのも有難いことです。北方におられるのは、釈迦如来です。

御真言には

のうまくさんまんだ ぼだなん ばくとお唱えし、

南無大師遍照金剛

南無大明神

と唱えて、恵方の徳をいただきます。

方位のお尋ねについて

新年を迎えて色々と計画されていることと存じます。

建築・リフォームなどで不明な点がありましたら、当山までお越しください。その際には、家の平面図をグラフ用紙に正確に書き、磁石を数回ふった南北線を記入した図面と、ご家族の生年月日を添えてお尋ねください。

生かせいのち

【第五十二話】

名誉住職 桑山聖規



平成二十九年丁酉年の新年を迎えて、心より信者皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。

酉年一ヶ年の御守護佛は不動明王です。その御姿は青黒色で火焰の中に立たれ、右手には利剣、左手には繩を持ち、憤怒の御顔の上には蓮華を載せておられます。この御姿は、不動尊の誓願を示しています。背後一面の火焰は、

私達の諸々の罪を余さず焼却して助けようとするもの。右手の利剣は迷いを断ち切り、左手の繩は悪い道に進む難化の衆生（私達）を戒め正すものです。頭上の蓮華は、信じる者を頭の上に乗せて極楽の佛の世界へ連れて行くという真に有難い御誓願です。

私は十七歳の時、自動車と衝突して頭を打ち、意識不明になりました。乗っていた自転車がかくの字に曲がったのですから、大変なものです。左目の上に大きなコブが出来ていましたが、レントゲン等も受けずに湿布と飲み薬の治療です。事故の後には歩きたび頭に響き、足を引きずる様になっていました。中々痛みが治まらず、姉の誘いで不動尊に助けて頂きたいと信心を起こしたのです。

尾張一宮の不動尊に日参して、住職様のお加持を受けることにしました。大変信者が多く、中々自分の順番が来ません。後から来た人が「予約してあるから」「急ぐから」とかで先に行くこ

とに腹が立ち、生意気に「この寺の住職は道徳も教えないのか」と不足を思いました。この心では、お加持を受けても御利益はありません。一週間ほど日参しましたが、少しも良くならないので止めてしまいました。その後二ヶ月、鍼灸や指圧を受けましたが痛みはひかず、姉にまた相談しました。「短気を起こさずに、お不動様を信じてお加持を受けること」と教えられ、心を入れ替えて再び日参に入りました。そして不動尊のお陰を頂いて完治したのです。

世の中には自分のような医学治療でも治らぬ人がある、その人を助けたいと思うようになりました。しかし私の実家は熱心な浄土真宗の信徒であり、父は私を何度も厳しく戒めました。それでも諦めない私に対し「他宗を信じるなら勘当だ」と言い渡しました。私は覚悟を決め、自分の信念を貫くことを伝えて家を出ました。

一宮不動尊の住職様に入門をお願いに came ましたが、父親の反対がある事を知って入れてもらえません。玄関払い

輪 法 轉 (5)

で戸を閉められ、私は外に置きざらしです。夜になってようやく、住職様が出てこれ「体に悪いから中で寝なさい、明日話しましょう」と暖かい言葉で庫裏の一室に入れてもらいました。朝になり、住職は「親の反対する子を入れる訳にはいかない。帰る様に」と仰いました。私が、私の信念は変わりません。根負けした住職は、私に寺の掃除や参詣者のお茶出しなどをしよう示し、態度を見ておられました。そうして「修行する気なら、この白衣と腰衣を着けなさい」と出して下さいました。それから毎日の厳しい修行が始まりました。

それから七十五年、人を助けたい、佛の御心に叶うようにしたいと、反省と修行に精励してきました。私は不動尊の御縁日に生まれ、何度も命を助けられてきました。いま生きていられるのは、不動尊の御守護のお陰あるのみです。誰でも信じる者はお守りくださる不動尊の御誓願を信じ、毎日拝み、お陰を受けて下さい。

合掌

心に宝をー22ー

本当の

プレゼントとは



橋本市

宝形山 地藏寺

井上 覚善

平成二十九年 正月

明けましておめでとうございます。今年は「酉年」で、私の干支でもあり、特別な感慨深い思いが自然と湧いてくるように思います。そして齢を重ねるに当たり、誰しも年に一度の誕生日を迎えるわけですが、私は自分なりの決め事が一つあります。

昔の話ですが、子供の頃のある年の誕生日の事です。私は兄妹が六人おりますし実家は貧乏寺でした。そんな状況は長男である私は一番分かっていたはずですが。しかし小学生の頃、友達が貰うような誕生日プレゼントがどうしても欲しくて、父にしつこくせがんだ事が一度あり

ました。すると父は「誕生日だけなんて、なんで親がプレゼントばあげなるとか。誕生日ていうとは、子供が産み育ててくれた親に感謝ばせにゃん日たい。」とピシヤリと言われました。でもその時の子供心には、理屈ではなんとなく分かりましたが、慥然とした気持ちになり、自分の生まれた境遇が嫌になつてしまつたりしたものでした。

それから時は流れ、自分も家庭を持ち、子を持つ親となつた今は、その時の父の気持ち痛みほど分かりますし、子育てで必ず生じる心配や悩みで壁にぶつかる度に、親の気持ち・真の愛情が身に染みてきて、自分がかけた苦労・心配は如何程であつたかと思うと、自然に涙が頬を伝う事が折に触れてあります。

ですから、ささやかな事ですが、誕生日の日は、先ず朝一番に、実家の両親にお礼の電話をかけるようにしました。それはたった一本の電話ですし、いつまで伝えられるか分かりませんが、「お父さん、お母さん、御蔭様で無事に〇〇歳に

になりました。いっぱい心配・苦勞かけたけど産んでくれてありがとう。育ててくれてありがとう。いつも見守ってくれてありがとう。」と、最近やつと素直に言えるようになってきたように思います。

そして今、深く思いますのは、私は両親から金銭や物でのプレゼントを貰うことは無かったですが何よりも一番大切な事を教えてもらうことが出来、世界一の幸せ者だと思っております。また更には、昨今の変化が目まぐるしい時代だからこそ、自分自身を見失わない為にも、「本当の幸せというものは何か。」「本当に大切なものは何か。」という事を今一度しっかりと考える必要があるのではないのでしょうか。

「私たちの命」は、親・先祖の想いが詰まったかけがえのない宝物であります。授かった命を大切にし、自分なりに磨いて出来る努力をして、確実に残り時間は減っていつている人生を大いに楽しんで、感謝の想いを刻みながらしっかりと歩んで行きたいと思う、平成二十九年の初春であります。

合掌

生かし生かされ

尊い命

五條市和田
光明院住職

岩井恵照

「津久井やまゆり園」で障害のある人たちが十九人も殺害され、多数の方が怪我を負う痛ましい事件が起きまし

た。被害者の方々の恐怖や苦痛を思うと、やり場のない怒りや無念・不安などで胸がつぶれそうです。被害者のご家族の悲しみを考えると激しい憤りを覚えます。亡くなった方々のご冥福をお祈りするとともに、そのご家族にはお悔やみ申し上げ、けがを負われた方々が一日も早く回復されることを願います。

容疑者は、自分で助けを呼べない重度の障害者を次々に襲い、傷つけ、命を奪いました。とても残酷で、決して許されることはありません。その上、「障害者は役に立たないからいなくな

ればいい。安楽死にするべき」などという身勝手な主張をしていると報道され、それを支持する声もあるとか。

とんでもありません。障害者が何をしたというのでしょうか。なぜ、障害者が殺されなければならぬのでしょうか。障害者に生まれたくて生まれた人はいませんし、障害者を生みたくて生んだ親もいません。たまたま何かのめぐり合わせで障害を背負って生を受けただけなのです。

障害者の親は、わが子の障害を知って苦悩の時を過ごします。やがて、その真実を受け入れ、わが子の成長のために努力を惜しまず全力で支え続けます。親にとって、

障害があってもかけがえのないわが子であり、大切な命なのです。障害者だから、という理由で殺されたり、排斥されたりすることはあつてはならないことで



輪 法 轉 (7)

す。

障害者は、その障害のある部分では健常者より劣っているかもしれませぬ。周りの人たちの手助けを必要とします。でも、よく考えてみてください。人間としての価値はただそれだけではないはず。重い障害を背負っていても、素晴らしい生き方をされている方がたくさんおられます。

「世の中には無用なもの一つもない。すべてのものは適所におかれたならば最上のもとなり、ほとんど無用のように見えるものでも、他のものにも力を与えるとともにその支えにもなる」と、米国の詩人、ロングフェローも言っています。

秀でた人も平凡な人も、障害のある人もない人も、いろんな人がいるからこそ、この世の中が成り立っているのです。障害を背負った人を含め、一人ひとりが、後にも先にもない世の中になった一人の大切な尊い存在です。お互いに生かし生かされつつある尊い存在だと思えます。誰の命も大切に尊いのです。

自分自身が大切ならば、周りの人たちもそれぞれに大切なのです。自分も、周りの人たちもそれぞれに大切に尊いのです。周りの人たちを見直してみてください。それぞれの値打ちに輝いているのに気づくはず。この特異な事件で世の中が変わってしまったように、と願っています。障害を背負っている人の素晴らしい光を世の中に届けるために、みなが今まで通りの信念で手を携えて歩んでいかなければと思います。

体 験 談

奈良県

N

様

主人の声が出にくくなったのは、昨年十月頃のことです。耳鼻咽喉科にかかりましたが効果がありません。内科で精密検査を受けたところ、ステージ3〜4の食道ガンとわかりました。「余

命は三か月、抗ガン剤治療や放射線も無理かも」と宣告されて大学病院へ入院することとなりました。

その時に轉法輪寺のことを思い、お大師さまにお願いしようと御祈禱を受けたお陰か、二日後には放射線治療を始めることが出来ました。良い先生や放射線技師さんに恵まれて、三十回の放射線治療を終えました。退院時の検査では食道ガンが消えたと言いき、耳を疑いました。その後再び、リンパと肺の一部に転移が見つかり、抗ガン剤治療を受けることになりましたが、副作用もなく腫瘍マーカーも正常値に戻っているとのこと。診断書には治療に近い状態と書いてありました。

余命三か月の宣告から、奇跡が起きた気がします。主人もよく頑張ってくれました。今日まで多くの人に支えられてきたことを思い、有難く感じます。水児供養もでき、これも全てお大師さまのお導きあつてのことと感謝しています。これからのことはわかりませんが、今まで通り私自身の精進と信じ、主人を支えていきたいと思っています。

永代供養会 去る十二月六日

記念講演

「いのちのふるさとを考える」

奈良県

浄土真宗本願寺派教恩寺住職

やなせなな コンサート&トーク



本年の永代供養会記念講演は、お寺の住職を務めるかたわら、全国各地で講演・演奏活動を行っているやなせななさんをお迎えしました。美しい歌声と語りに参拝者がみな引き込まれたひと時となりました。

若い頃に次々と生きがいを奪われる不幸に見舞われ、世の中を怨む気持ちを持つてしまった。しかし仏さまは、常にそんな悪人である自分に向けて手を差し伸べて下さっていた、それに気がなかつただけだとお話しされました。

「極重の悪人は、ただただ阿弥陀仏の御名をとなえなさい(源信僧都のお言葉)」

仏の手に気づかず、見ようもしなかつた。自分の不幸ばかりに囚われた悪人だった。阿弥陀仏は、そのような自分も救おうとされていた。人はみな傷つきながら生きていくということ。そして、救われたいと必死で手を伸ばしていること。そして、手と手がぶつかったとき、「自分だけじゃなかつた」と知る。自身が痛みを知っているから、他の人の痛みを想うことが出来る。自分自身に痛みを抱えているからこそ、誰かの為に働こう、仏さまが自分にして下さっていたように手を伸ばそうと、震災支援をはじめとする様々な援助活動を始められました。

「お浄土を、仏様を信じていようが、

そうでなからうが、関係なく仏さまは待つておられる。見守つて頂いている。」やなせさんの言葉が胸に残りました。参拝者からは、「私も大きな病気をした経験があり、共感しながら聞いていた。その当時の自分を重ねて涙がこぼれた。」との声が聞かれました。

編集後記

(永代供養講演を受けて)

仏教の世界では、「悪人」を普通とは違う意味で使うことがあります。悪人とは、自分自身が悪いことをしていると気付いている人です。色々な物の命を頂いている、お世話になつて暮らしている。そうしなければ生きていけないのが我々です。助けてもらつて今があることを有難く、申し訳なく思うのが悪人です。

善人はそれに気づかず、私は何も後ろめたいことは無い、自立して誰の助けも借りてないと思つている人の事を指します。しれつとした顔で、誰にも謝る事を思わず生きていく人です。

「謝るを感じる」と書いて「感謝」。自分が悪人であると気付いた時にこそ、感謝の気持ちが生え、受けてきた恩を返さねばならないという心を生むのですね。

(9) 輪 法 轉

新春の行事

初大師

一月二十一日(土)

十時より

大般若経六百巻転読法要

《ゲスト》

「グループおひさま」による紙芝居

「貧女の一灯」



『大般若経典にてお加持いたします』

初不動

一月二十八日(土)

九時より

十二座護摩供

厄除開運・

善願成就の大祈禱



稲荷祭

三月五日(日)十時より



ゲストは

「スマイル和」

すまいるわ

知的障害を持っている本人とその親、そしてオカリナの優しい音色が大好きな仲間たち12名のグループです。

オカリナの優しい音色に包まれてみませんか♪

平成29年度 春の四国遍路巡拝バスツアー

阿波(徳島県)一国参り

1番霊山寺から23番薬王寺まで

日時:平成29年3月29日(水)~31日(金)

2泊3日

定員40名 予価:43,000円

今春は1番札所からのお参りです。経験豊富なお仲間と一緒にですので、初めての方も安心です!



秋の巡拝は土佐一国参りを予定しています。春秋一国づつお参りし、二年で満願いたします。

1月3日(火)

AJIGUL

(アジグル)

新春コンサート

尺八：辻本好美

ピアノ：砂川彩乃



尺八×ピアノによる新進気鋭ユニット AJIGUL。「日本の美意識」を発信するために2014年に結成し、全国各地で演奏活動を行っています。

揮毫 島岡芳山(五條市)

一月二日(日)・二日(月)

開運破魔矢
狩場明神御真影の授与
甘酒接待



身代りお守り授与
白衣袈裟腕念珠をつけて九時までにお集まり下さい。奉納された鏡餅を切っていただきます。

酉(とり)年男・年女
の方大集合!

十二月三十一日(土)夜十二時より

除夜の鐘・百八灯明の点火

般若理趣三昧

初護摩供



お鏡開き

一月三日(火)午前九時半より

法要

おたのしみ福引き(空くじなし)
篤志者の御奉納により、千名の方におたのしみ福引きがあります。
ぜんざい・鏡餅接待

星祭祈願受付中

一年間の厄除け開運のために
ご祈禱をお申し込み下さい。



平成二十九年
厄除け星祭り祈禱

星祭り結願祭

二月三日(金)十時より

― 厄除けのお札を

お渡しします ―